



学校だより

のびるかみっ子 ～ “元気” があれば何でもできる!! ～

上小岩



令和7年10月2日

NO.7

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司



「昭和」は遠くなりにつれり ～よさを受け継ぎ、変えていく～

校長 宮本 知司

降る雪や 明治は遠くなりにつれり 中村 草田男がこの句を詠んだのは昭和6年の冬。

明治の世から短い大正も超え、昭和に入った時だそうです。同様に、今の私たちには令和の

時代がすっかりと定着し、平成の前の「昭和」と言っても本当にはるか昔のことで、まさに「遠くなりにつれり」というイメージがあります。しかし、昭和で数えていくとちょうど100年となる大きな節目の今年、上掲のロゴマークを作ったりいろいろな催しがあったりと、昭和リバイバルの風もあるようです。

以前に話題となった映画『三丁目の夕日』でも描かれたように、戦後の高度経済成長期の“元気な日本”の姿が、昭和というイメージされます。昭和40年代に生まれた私にとっても昭和終焉の「バブル景気」までの20数年間は、子供から学生までの時代と重なり、「今よりも不便だったけれど、なんだか楽しかったなあ」という思いがあります。学校も、そんな昭和・平成のもつ“よさ”を受け継ぎつつ、「令和時代の学校へ」と変えるべきところは変えていくのが、現代の私たちに課せられた課題であろうと考えます。

例えば11月に実施する6年生の日光移動教室では、毎年行っている奥日光のハイキングルートを(大いに迷った末に)変更します。熊に関する事故が国内各地で続く中、奥日光ビジターセンターHPの情報を注視していますが、9月中旬以降、日光でも至近距離での熊との遭遇が頻発していることを受け、子供たちの不安感払拭を一番に考えました。早速担任は、「どんなコースを歩こうか」「アイスを食べる場所は…」と、6年生の子供たちに晩秋の奥日光を味わわせる代案を考え始めています。時代の変化に加えて地球規模の環境変化も続き、これからも多くの場面でその判断には迷うことが続いていきそうです…。



秋の空気の中、広く整備され直した「新しい校庭」で元気に遊ぶかみっ子です！